

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	生後4か月までの乳児家庭全戸訪問事業の充実						掲載ページ	
							172	
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局	
		45,518 「のびのび赤ちゃん訪問事業」の総額 本事業はその一部	千円	45,723 「のびのび赤ちゃん訪問事業」の総額 本事業はその一部	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	生後4か月までの乳児がいる家庭を訪問し、子育ての孤立化を防ぐために、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行うとともに、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供に結びつけることにより、地域のなかで子どもが健やかに育成できる環境整備を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです	
活動計画	訪問を継続実施し、訪問担当者に対する研修会を行うなど、事業の充実を図ります。訪問等でその居宅において面接して情報を提供します。また、訪問により、養育支援の必要な家庭を把握し、支援に繋がります。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	生後4か月までの乳児家庭訪問の割合					
	全戸訪問により母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため、活動指標としました。 (最終目標と最終年度) 100% (平成26年度)	88.9 %	100 %	86.7 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	専門職による訪問数				大変順調	
全戸訪問により母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため、活動指標としました。 (最終目標と最終年度)	6,403 件	適切な訪問	6,916 件		順調	やや遅れ
				108.0 %	遅れ	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。」
		子どもの出生数は減少していますが、子育て支援を必要とする家庭への保健師、助産師等の専門職による訪問数は増えています。また、地域支援者（主任児童委員等）による地域に住む人ならではの情報提供や関わりも定着してきており、専門職と地域支援者それぞれの強みを活かした活動が展開されていることから順調と評価しました。
		主任児童委員等の協力のもと、現在のコストで事業を維持できています。出生数は減っても、専門職の訪問対象である養育支援の必要な家庭は増えてきており、これ以上のコスト削減は困難です。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行います。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。 今後も関係機関と連携し、より効果的な事業の推進を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	乳幼児発達相談指導事業(わいわい子育て相談)の拡充						掲載ページ	
							172	
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局	
		23,460 「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	千円	26,623 「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	心身の発達が気になる乳幼児について、医師・臨床心理士・保育士等がチームで相談に応じ、保護者の育児不安に対応することで、発達障害等を早期に発見し、乳幼児の健全な発達を支援します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	育児不安や就学前までに発達の気になる親子を対象にした教室を実施し、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減に繋がります。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	わいわい子育て相談の実施回数	104 回	204 回	102 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達が気になる子どもを早期に発見し、親子を支援するために相談体制の充実が必要であるため、わいわい子育て相談の実施回数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度) 204回 (平成26年度)			50.0 %		
	わいわい子育て相談の参加者数	352 人	増加	389 人	順調	順調
発達相談の中で気になる子どもを早期に発見し、支援するために相談体制の充実が必要であるため、わいわい子育て相談の参加者数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度)	やや遅れ					
				遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	区によっては相談待機者が出ることもありましたが、多くの専門職種が関わる事業であり、開催回数を増やすためには調整が必要であることから現状維持に留まりました。その後のフォローの場である「親子遊び教室」については、全区で開催されていることから、社会資源の充実とみなし順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	医療関係者等の専門職が実施しており、多職種による多角的視点による相談支援がこの相談の特徴なので、これ以上のコスト削減は困難です。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題の予防につながります。発達が気になる乳幼児に対する早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、確実な開催や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。発達が気になる乳幼児を早期に支援するために、相談事業の拡充や連携体制について、関係機関と協議し、今後も効果的な事業の推進を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	障害児保育の充実						掲載ページ		
							172		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		212,642	千円	234,034	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 通常保育での受け入れに加え、延長保育、一時保育を含めて保育所での集団生活が可能な障害のある子どもの受け入れを行います。また障害のある子どもの福祉の向上と、保護者の就労を支援するため、関係機関の協力のもと、保育所での集団生活が可能な重度の障害のある子どもを直営保育所で受け入れます。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	保育所での集団生活が可能な障害児を通常保育だけでなく、延長保育、一時保育での受け入れを行います。また、保育所での集団生活が可能な重度の障害児を直営保育所で受け入れます。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
		通常保育における障害児の入所状況 障害児の受け入れを全保育所で行っていることから通常保育における障害児の入所可能施設数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）	160 箇所 (100%)	163 箇所	163 箇所 100.0 %	大変順調
	特別保育事業における障害児の入所状況 保護者の仕事と子育ての両立支援を図るため、通常保のみならず特別保育事業においても、一時、延長保育の実施保育所で障害児の受け入れを行っていることから、特別保育事業における障害児の入所可能施設数を指標としました。 （最終目標と最終年度）延長保育153箇所 一時保育64箇所（平成26年度）	(延長保育) 148 箇所 (一時保育) 67 箇所	(延長保育) 149 箇所 (一時保育) 71 箇所	(延長保育) 149 箇所 (一時保育) 71 箇所 100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成27年3月1日現在、113施設で349名の障害児を受け入れました。直営保育所では重度障害児23名を受け入れました。 障害の有無にかかわらず、一緒に保育し、ともに育ち生活する中で、相互の健全な育成を図ることができます。保育所での保育が可能な障害のある子どもを積極的に受け入れており、なおかつ就労を希望する保護者も増加すると思われるため、障害児保育のニーズは高まると予想されます。有効性は、高いと思われます。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現在は障害児数に応じた職員配置を、常勤やパートで行っており効率性は高いと考えます。これ以上のコスト削減は困難と考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

本事業は、児童の福祉向上に資するところも大きく、保護者の就労支援、子育て支援を図る上で施策に対する有効性も高く、今後も関係機関との連携、研修、会議等内容を工夫しながら、保育の質の向上を図り、着実に取り組むことが適当だと考えます。
統合保育が可能な障害のある子どもについては、引き続き全保育所で受け入れます。
加えて、一時・延長保育を実施している保育所では、在宅障害児の一時保育、在園障害児の延長保育も行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	親子通園クラスの設置						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		1,685	千円	3,642	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	直営保育所へ「親子通園クラス」を設け、主に未就園児を対象に発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健、医療、福祉の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	八幡西区黒崎保育所、小倉北区東篠崎保育所において、親子通園クラスを運営し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	親子通園クラスの利用者数（延べ数） 計画当初は目標数を実施箇所数（7箇所）としていたが、保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示すには、親子通園クラスの箇所数よりも利用者数が適当と考えられるため、指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）<7箇所、平成26年度>200組（平成26年度）		217 組	200 組	300 組 150.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調
							（最終目標と最終年度）

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	小倉北区東篠崎保育所と八幡西区黒崎保育所の親子通園クラスで、遊びの提供や保護者との懇談を行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した支援を行いました。黒崎保育所は延べ180組、東篠崎保育所は延べ120組の親子が利用しました。通園利用世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また、保育所・幼稚園・療育機関等への移行先が決定した世帯も84%を超え、移行支援としての成果も出ていることから順調としました。全国的に先駆けた事業です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	直営保育所の経費資源を活用することでコストを抑えるとともに、利用料として1世帯あたり月に4,000円を徴収しています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること	
引き続き、実施している2ヶ所について検証していきながら、関係機関との連携、PRを行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対して、継続した支援を行います。	

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備(保育所等)						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		0	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 保育所や幼稚園、知的障害児通園施設児童発達支援センター、入所施設、特別支援学校等で、市民が気軽に相談できる窓口を設けられないか検討します。その体制を作るため、障害児療育の専門機関による技術的支援を行うなど、保育所等の職員の専門性の向上を図ります。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	市民の相談窓口設定の検討を行い、保育所等の職員の専門性の向上を図ります。							
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)		→	【活動の状況】
	相談対応施設数		160 施設 (100%)	163 施設	163 施設		大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	保育所における市民への相談対応を行っている施設数が適当と考えられるため活動指標としました。 (最終目標と最終年度)				100.0 %			
							順調	順調
						やや遅れ		
						遅れ		
		(最終目標と最終年度)						

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 全保育所において、相談に対応できる体制を整備していることから順調としました。また、療育の専門機関から支援事業や保育課や社会福祉研修所主催で相談体制づくりの研修を実施しました。保育所は身近な施設で相談がしやすく、発達相談の早期発見につながります。また乳児から就学前までの様々な子どもがいるので、実際の援助の様子を見ることができ、保護者にとって大きな支援になることから有効です。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 保育所の機能を有効利用することで予算をかけずに実施しており、経済性・効率性は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
今後とも職員の専門性を高め、相談窓口としての機能を充実させ障害のある子どもの早期発見や支援につなげたいと思います。職員の専門性を高めるための研修会を実施します。また、育児に関する相談に対応していますが、障害に関する相談は少ないため、育児相談の一環としてPR活動を実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備(保育所等)						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,550	千円	2,843	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所や幼稚園、知的通園施設、入所施設、特別支援学校等で市民が気軽に相談できる体制を整えるため、障害児療育専門機関による職員への技術的支援を行います。					
活動計画	今年度も社会福祉法人に委託し、保育所等へ障害児療育の専門職員を派遣します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	施設一般指導事業実施件数 障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)	154 件	維持	139 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	保育所等訪問支援事業の実施件数 保育所等訪問支援は、障害児へ支援に加え保育所等で障害児を担当する職員に対して障害児への関り方の指導などを行うもので、専門性の向上へつながることから活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)	183 件	増加	623 件	順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関する保育所や学校などのからのニーズは続いており、前年度に引き続き派遣を実施することができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
<p>保育所等訪問支援は、受給者証の所持者に対して支援を行うものであり、実績件数も増えています。依然として障害かどうかはっきりしない児童への支援も必要とされており、引き続き障害児等療育支援事業による専門スタッフの派遣を行っていく必要があります。</p> <p>なお、本事業は「保育所における地域活動事業」の一環として実施します。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備(保育所等)【拡充】						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		0	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	児童福祉法に基づく児童福祉の専門的行政機関として、児童相談所(子ども総合センター)において、相談、指導、心理・障害判定、一時保護などの業務を行っており、児童虐待、非行、不登校などの様々な課題を抱える子どもや保護者に対応するため、カウンセリングやケースワーク、関係機関との調整、連携により適切な支援を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	子どもや保護者などの相談者に適切な支援等を行うため、各種取組みを着実に進めていきます。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	児童相談受付件数		6,212 件	単年度目標 設定なし	6,876 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	児童に関するあらゆる相談を受け付けた件数であり、児童福祉に関する専門的行政機関としての活動を最も端的に示すデータであることから指標に掲げました。 (最終目標と最終年度)						
			遅れ	遅れ	順調		
(最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童相談受付件数は増加しており、これは児童虐待等に関する広報・PRによる効果と認識しています。また、相談者には適時的確に支援を行っていることから、活動は順調と判断し、今後とも推進を図ります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	運営に係るコストについては、最小の経費で最大の効果を挙げるという組織管理の基本的理念に基づき、計画的かつ効率的な予算執行に努めてまいります。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

児童相談所(子ども総合センター)は、児童福祉法で政令指定都市に設置が義務付けられた行政機関であり、児童福祉の専門的機関として、児童を取り巻く多種多様な課題等に対し、迅速かつ適切に取り組むことが必要です。今後とも、次代を担う子どもの健やかな育成のため、関係機関等との連携を密に図りながら、より効率的、効果的な事業運営に努めてまいります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	専門機関との連携による保育所での発達支援の充実						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		0	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保育所と、「子ども総合センター」「総合療育センター」など専門機関との連携を強め、保育所に通うLD、ADHD、高機能自閉症のある子どもなどへの支援の拡充を図ります。特に今後の課題として、保育所における対応のあり方、専門機関との役割分担、保護者への支援のあり方等について検討を深め、支援に取り組みます。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	専門機関と連携して、発達障害児やその保護者への支援に取り組みます。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	専門機関と連携した発達障害児の支援	—	—	—	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子ども総合センター・総合療育センター・障害福祉センター等専門機関と連携し、発達障害児の支援の拡充を図ります。 （最終目標と最終年度）	—	—	—		
	保護者支援の取り組み	—	—	—	順調 やや遅れ 遅れ	順調
保育所と家庭がそれぞれの生活状況を伝え合い、共通理解を深めながら、個別の支援計画を作成し、保護者の悩みなどを支えます。子ども一人ひとりの状況に応じ、専門機関との連携を図ります。 （最終目標と最終年度）	—	—	—			

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 子どもの発達相談や保育への個別支援、研修などを通して、支援に取り組みました。一人ひとりの障害はさまざまであり、その状態も多様であるので、障害のある子どもの保育にあたっては、専門機関と連携する機会を多く持つことが重要で、有効性は高いと考えられます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 市の規定に基づく専門講師や既存施設を活用し、合理的に実施していきます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
今後とも専門機関との連携を深め、保育所における対応のあり方など研修を通して、発達障害のある子どもへの支援の充実を図るとともに、全ての保育所で研修や施設見学、実習を行うなど、保育所職員の資質向上を図ります。また、発達障害児に関わる他局と連携し、職員間での交流を図り、一環した支援を行える体制作りに取り組みます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	総合療育センター等の専門スタッフの派遣						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		36,111	千円	34,130	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に「総合療育センター」や「発達障害者支援センター」から専門スタッフを派遣し、指導・助言を行うとともに、保育士等の職員研修を充実することで、障害のある子どもの特性やかかわり方の理解を促進します。	活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行います。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	活動指標	発達障害者支援センター及び地域支援室の指導実施件数 障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）	154 件	維持	139 件	大変順調
保育所等訪問支援事業の実施件数 保育所等訪問支援は、障害児への支援に加え保育所等で障害児を担当する職員に対して障害児への関わり方の指導などを行うもので、専門性の向上へつながることから活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）		183 件	増加	623 件	順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害者支援センターおよび地域支援室の指導実施件数は、やや減少しているものの、保育所等訪問支援事業の実施件数が3倍以上増えていることから、順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

保育所等訪問支援は、受給者証の所持者に対して支援を行うものであり、実績件数も増えています。依然として障害かどうかははっきりしない児童への支援も必要とされており、引き続き障害児等療育支援児童事業による専門スタッフの派遣を行っていく必要があります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	総合療育センターの機能の強化						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,550	千円	695,100	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	医師をはじめ臨床心理士などの専門スタッフの充実等を図るとともに、「総合療育センター」の地域支援室による地域の保育所、幼稚園や通園施設等への支援の強化や市西部地区の障害のある子どもへの支援について検討します。（総合療育センターは指定管理者が運営）		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	医師確保に向けて大学医局への働きかけ等、必要な支援を行うとともに、機能強化に向けた取組みを継続します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	施設一般指導事業実施件数		154 件	維持	139 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児（者）の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）						順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ	順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関する保育所や学校からのニーズは続いており、前年度に引き続き派遣を実施することができました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
総合療育センターは、再整備に向けて基本計画が策定されました。平成28年に西部分所開設、平成30年に本体開設予定です。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	医療機関との連携強化						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		45,257 「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。	千円	44,725 「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 医療従事者を対象に、発達障害に対する理解を促進します。	活動実績	活動実績は下記のとおりです。
活動計画	医療機関において、発達障害の方との接し方や対応に役立てるために、医療従事者向けパンフレットを配布します。		

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
		パンフレットの配布数 発達障害の特性や対応について記載したパンフレットを配布することにより、医療従事者の発達障害への理解が進むと考え、パンフレットの配布数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）	2,700 部	増加	3,197 部	大変順調
	（最終目標と最終年度）				順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 発達障害の方は、どのようなことが苦手なのか、また不安があって落ち着かないときはどのように対応したらよいのか等を記載したパンフレットを医療機関の方へ配布しました。発達障害の研修会の時には、医療関係者の方へも案内文を配布し研修の参加を促しました。医療従事者への発達障害の理解を促す取り組みは着実に進んでいることから、順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 パンフレットを活用することで、より多くの医療従事者の方に、発達障害の啓発ができたと思われます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

医療の現場においても、発達障害者の特性に適した対応が必要なことから、今後も発達障害に対する理解が深まるよう、医療従事者への働きかけを行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	特別支援教育を推進する全市的な相談支援体制の整備 (旧:特別支援学校のセンター的機能の整備 と 旧:特別支援教育相談センターにおける相談事業を統合)						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		27,764	千円	44,955	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 障害のある児童生徒が自立や社会参加している状態。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動計画	市内の小・中学校、園がそれぞれの機能を活かし相談支援体制を確立できるようになるまで指導助言を継続します。		

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
		特別支援教育コーディネーターを指名している学校園数 特別支援教育コーディネーターの効果的な活用ができるよう指導助言を行っています。 (最終目標と最終年度)	211 校	211 校	211 校 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
就学相談と通級相談の申し込み数(実数) 申し込み数が増加している就学相談や通級相談のシステムを改善することで保護者・子ども・学校への対応がスムーズにできるようにします。 (最終目標と最終年度)		1,026 人	1,000 人	1,046 人 104.6 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	全ての市立幼、小、中、高校では、特別支援教育コーディネーターを指名し、校内委員会を設置しています。今後は、校内の相談支援体制が確立できるよう指導助言を行っていきます。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	効率的な相談業務を行うことで、コスト削減に努めています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

特別支援教育相談センターの相談機能を強化し、全ての市立幼、小、中、高校学校の体制整備の一層の促進・質の向上を図ります。特別支援教育相談センターの相談機能を強化するために、専門家(言語聴覚士)の配置を引き続き検討します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	新生児聴覚検査事業						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		12,808	千円	13,700	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どの様な状態にしたのか	聴覚の障害を早期に発見し療育を開始することで、コミュニケーション形成や言語発達に効果が得られるため、新生児に対して行う聴覚検査費用の一部を助成します。また、検査で聴覚障害が発見された場合には、早期療育に取り組むための支援を行います。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	聴覚の異常を早期に発見し支援することで、言語発達に効果があることから、関係機関と連携を図りながら、事業を継続します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	聴覚検査実施件数		6,505 件	適切な実施	6,359 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	早期に発見することで早期療育につながることから、活動指標としました。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成26年度は、新生児6,359人が検査を受けており、その結果、精密検査が必要な乳児に対して、保健師等が訪問などを実施してフォローアップを実施できたことから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	聴覚の異常を早期に発見するための検査として有効です。現在、検査料の半額は自己負担としています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
乳幼児等の聴覚の異常の早期発見、早期療養のため、現行制度を継続して実施すると同時に、財源確保の問題も含め、制度のあり方を検討します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	北九州市障害者基幹相談支援センターの運営(旧:北九州市障害者地域生活支援センター)						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		126,575	千円	155,902	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 障害者相談支援事業を実施する「北九州市障害者基幹相談支援センター」(ウェルとばたに内)の運営を北九州市障害者相談支援事業協会に委託して、障害者及びその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のための必要な援助を行うことにより、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにします。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	障害者基幹相談支援センターにおいて、よろず相談窓口として家庭訪問を含む相談支援を行うとともに、併せて障害者虐待防止センターの機能を持たせて、虐待に関する通報の受理や養護者への指導、啓発などを行います。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	障害者基幹相談支援センターの相談件数		23,484 件	増加	24,561 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害児(者)が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにするため、障害者地域生活支援センターが障害児(者)やその家族等からの相談に応じ、必要な支援を行います。 (最終目標と最終年度) 43,669件 (平成29年度)						
					やや遅れ		
					遅れ		

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 広報活動の促進や、各種研修会を開催することで障害者基幹相談支援センターの知名度を上げることができ、相談件数は前年度より大きく増加しました。これにより多くの障害者及び家族等の悩みなどに対応することができたと推測されますので、成果の状況は順調と判断しました。 本事業は、障害者が日常生活を安心して送り、地域で暮らしていくために必要不可欠の事業であると考えられます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 業務の簡素化、効率化を図るため、専門家のいる障害者相談支援事業協会に委託し、迅速な問題解決を図っています。これにより、職員の異動に左右されず長期的な相談人材の育成が可能になります。また、3障害への対応を1ヶ所で行うことにより障害種別、状態や年齢を問わない相談支援が可能となり、効率的に相談支援が実施できていると考えます。しかし、相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
平成27年度以降も引き続き、出前相談など丁寧な相談支援方法をとることにより、障害のある人が自立した日常生活や社会生活を営むことができるようにします。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	おもちゃライブラリーの運営						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		750	千円	750	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	障害児の障害程度・種別に応じ、療育と教育の一環として、おもちゃを通じて、身体的・精神的発達を促すため、おもちゃの貸出、研究及び相談を行います。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	東館、西館、と2ヶ所の分館で、おもちゃの貸し出し等を行います。あわせて、西館移転に伴う、周知活動を行います。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→ 【活動の状況】
	おもちゃの貸出点数		384点	-	414点	大変順調
	「おもちゃの貸出点数」の増加が、利用者の満足度の高い事業である判断基準と考えられることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）					
						順調
					やや遅れ	
					遅れ	順調

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 平成25年度の西館のコミュニティへの移転により、やや足が遠のくなど、西館の利用者はいまだに減少した状態です。しかし、全体的には、安定した件数を貸し出していることから、順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 おもちゃライブラリーを運営するために設立した無償ボランティア団体に委託しています。したがって最も経済効率が良いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
平成26年度に引き続き、西館移転後の利用者数に留意し、必要に応じてチラシの配布や広報掲載などの周知活動を行っていく必要があります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	特別支援教育を推進する全市的な相談支援体制の整備 (旧:特別支援学校のセンター的機能の整備 と 旧:特別支援教育相談センターにおける相談事業を統合)						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		27,764	千円	44,955	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害のある児童生徒が自立や社会参加している状態。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	市内の小・中学校、園がそれぞれの機能を活かし相談支援体制を確立できるようになるまで指導助言を継続します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	特別支援教育コーディネーターを指名している学校園数		211 校	211 校	211 校 100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	特別支援教育コーディネーターの効果的な活用ができるよう指導助言を行っています。 (最終目標と最終年度)						
	就学相談と通級相談の申し込み数(実数)		1,026 人	1,000 人	1,046 人 104.6 %	順調 やや遅れ 遅れ	順調
申し込み数が増加している就学相談や通級相談のシステムを改善することで保護者・子ども・学校への対応がスムーズにできるようにします。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	全ての市立幼、小、中、高校では、特別支援教育コーディネーターを指名し、校内委員会を設置しています。今後は、校内の相談支援体制が確立できるよう指導助言を行っていきます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	効率的な相談業務を行うことで、コスト削減に努めています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
特別支援教育相談センターの相談機能を強化し、全ての市立幼、小、中、高校学校の体制整備の一層の促進・質の向上を図ります。特別支援教育相談センターの相談機能を強化するために、専門家(言語聴覚士)の配置を引き続き検討します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	特別支援教育を行う場の整備						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		935,767	千円	3,558,117	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	企画課 特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	特別な支援が必要な児童生徒の状況や学校の設置要望等に応じて、適切に設置できている状態を目指します。		活動実績	特別支援学級や通級指導教室の設置が本人や保護者の希望を踏まえて計画的に行われ、確実に前進しています。		
活動計画	特別支援学級及び通級指導教室が適切と判断される幼児児童生徒を早期に把握し、地域的な設置状況を踏まえながら、教育的ニーズのある小・中学校の設置を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	居住地の校区外の特別支援学級に通学している対象児童生徒の割合		30 %	25 %	19 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	共生社会の実現に向けて、障害のある本人や保護者の負担を軽減するためにも、居住地の特別支援学級に通学することを目指します。 （最終目標と最終年度）				76.0 %		
	通級指導教室の設置校数		18 校	20 校	18 校	順調 やや遅れ 遅れ	順調
通級指導教室を新設または増設することで、対象児童生徒のニーズに応えます。通級指導教室設置校数を18校から24校に増加させることを目指します。 （最終目標と最終年度）		90.0 %					

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成25年度に特別支援学級の設置校数は、小学校131校中94校、中学校62校中47校であったのに対し、平成26年度は小学校100校、中学校49校に設置しています。通級指導教室については、新設がありませんでした。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市民の特別支援学級の新設に対するニーズは高い状況です。特別支援学級の設置については、児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえ、福岡県とも連携しながら、必要に応じ、適切に設置しております。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること	
児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、特別支援学級を教育的ニーズのある小・中学校に設置し、通級指導教室を小・中学校ともに全区に設置することを目指し、特別支援教育の場を充実させます。	

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	特別支援教育を推進する人の配置						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		155,362	千円	221,287	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	適切な支援・指導を図り、障害のある幼児児童生徒の学校生活を安全で安心できるようにします。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	学校の状況を多方面からの情報を基に検討し、人材を効果的に配置することで目的を達成します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		→ 【活動の状況】
	特別支援教育補助講師の配置校数		48 校	50 校	62 校	124.0 %	大変順調
	通常の学級及び特別支援学級等における特別支援教育の充実を目指すため、学校の実情に応じて継続して特別支援教育補助講師の配置を行います。また、新たに特別支援教育学習支援員の配置を行います。 （最終目標と最終年度）						
	特別支援教育介助員の配置校数		19 校	20 校	20 校	100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ
通常の学級に肢体不自由の児童生徒が在籍する小・中学校に対して、特別支援教育介助員を配置し、学習面や生活面での介助を行います。 （最終目標と最終年度）							

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	必要に応じて児童生徒数がおおむね5人以上の自閉症・情緒障害特別支援学級に、特別支援学級補助講師を配置しました。また、新たに特別支援教育学習支援員も5名配置しました。特別支援介助員は児童生徒の身体の状態を確認した上で必要に応じた配置ができており、26年度も20名の配置ができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	学校・園からの要望や必要性を勘案し、適切に配置しています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること	
市費講師等を特別支援教育支援員として幼稚園、小・中学校等に配置し、障害のある子どもたちに対して学習指導や生活介助等を行います。	

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	特別支援教育の理解啓発						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		39,594	千円	1,967	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保護者や市民、関係機関等に、障害のある子どもたちや特別支援教育について理解が深まるようにします。		活動実績	公開講座については、研修等の機会を捉えて広報することで、目標以上の参加者を集めることができました。発刊物は、6種類を刊行し、幼稚園・保育所、学校、保護者へ配付しました。		
活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ○公開講座について、研修等の場を利用して、積極的に広報活動を行います。 ○刊行物を幼稚園・保育所、学校、保護者に広く配布します。 ○幼稚園・保育所、学校に、可能なものはデータ配信し、保護者への配付依頼を行います。 						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		→ 【活動の状況】
	公開講座参加人数		521 人	550 人	601 人	109.3 %	大変順調
	幼稚園・保育所・小学校の教職員向けの公開講座を開催し、障害のある子どもの小学校へのスムーズな移行を目指します。このため、当該指標を設定しました。 （最終目標と最終年度）						
	理解啓発資料刊行数		5 刊行	6 刊行	6 刊行	100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ
保護者向けのリーフレット「通常学級における特別支援教育」等、特に市民・保護者への理解啓発の充実に努めます。このため、当該指標を設定しました。 （最終目標と最終年度）							

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 平成26年度は理解啓発資料を6種類刊行し、幼稚園・保育所、学校、保護者へ配付するとともに、機会あるごとに活用することを周知しました。また、HPを適切に更新してニーズに応えるようにしました。公開講座では、601人が参加しました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 可能なものについては、幼稚園、学校等にデータ配信して保護者への配布依頼をするなど、周知に向けて費用対効果は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
これまでの刊行物に加え、新たな刊行物を作成し、幼稚園・保育所、学校、保護者に配付します。ホームページを定期的に更新します。